

市政を 問う

令和2年 第3回定例会 一般質問での質問・答弁(要旨)

一般質問を行った議員の順番で、各議員が一定のスペースで自由にまとめたものを掲載しています。

けやき運動場を子供たちに自由開放せよ!!

▼けやき運動場の個人開放について

【吉田】人工芝化が完了するもフェンスがあり従前のように空いている時間を自由に活用できない。どうなっている？

【答】施設の維持確保の観点から無人時の利用は制限したい。規定時間内の比較的利用率の低い時間帯を自由解放出来るよう検討する。

▼国3・4・6号線【熊野神社通り】開通は？

【吉田】用地取得完了と聞いた、今後の進め方を広く市民へ説明せよ。また、府中街道から熊

野神社までの間を先行整備し部分開放急げ。

【答】大型マンション管理組合も含め周知する。また、部分開放は周辺の交通が円滑になり有効、市としては引き続き東京都に要望していく。

▼レジ袋有料化に伴い新しい生活様式を

【吉田】普段何気なく貰っていたレジ袋が有料化され、袋が本当に必要か？環境面はどうか？等、図らずもコロナ禍と時を同じくした為に私達の生活様式を見直す良いきっかけとなった。他方、現状の国分寺市指定ゴミ袋は3ℓのミニ

自由民主党市議団
吉田 りゅうじ



袋やカラスの被害防止素材を採用する等、他市に無い特徴がある。「捨ててしまうレジ袋」から「燃やせるゴミ袋として再利用出来るレジ袋」へのシフトをスーパー・コンビニ等民間事業者にアプローチし協同事業化など如何か？

【答】指定ゴミ袋のばら売りを拡充し活用して貰うことから寄与したい。他市では資源プラの有料化で3Rに寄与しており更に研究していく。

文化の灯を絶やさないためにできることを

1. コロナ禍における文化施策について

Q. 現在、市施設を利用する際、使用制限等を設けた留意事項があり、制限が厳しいという声もあるが、考え方について聞かせて欲しい。

【市民生活部長】施設の特性に合った全国規模の団体が出しているガイドラインを踏まえ、利用者や来場者の生命と安全を確保するため作成された留意事項。ご不便をおかけするが、ご理解いただきたい。今後の状況を注視しながら、適宜内容を精査していきたい。

⇒各施設からクラスターが出ないよう、感染症予防対策をしっかりと取っていただくご協力をお願いし、withコロナの制約の範疇で、文化活動に関する施策については継続して推進していくことを要望。また、今後の発展を考え、より多くの人が集まり、活動が行えるホールは大切な施設と考える。公共施設の再編時には、ホールの再建も念頭に置き、検討することも併せて要望。

2. コロナ禍での学習の在り方について

Q. 各学校には授業時数の確保に努めるとともに、行事や体験学習等も工夫しながら取り組んでいただきたい。

【教育部長】授業等の質的改善を図るとともに、各教科、総合的な学習及び学校行事などの特別活動をバランスよく指導できるよう配慮し、例年とは異なる形式での行事实施の可能性について検討するよう伝えてきた。

自由民主党市議団
小坂 みちよ



オンライン相談実施で孤立させない子育てを

1. 平和事業について

コロナ禍で平和事業が中止されたが、戦後75周年の今年、平和祈念式が開催できたことは喜ばしい。コロナ対策を講じた上、後半の事業開催を望む。【市長】平和事業に力を入れていきたい。3月の東京空襲資料展はしっかり行いたい。

2. パートナーシップ宣誓制度について

多様性を認められる魅力ある国分寺にしていく為にも必要な制度。対象者、方向性など市の考え方を問う。【市】同性のカップルと併せ、トラ

ンスジェンダーなど同性に限らない方々も対応できるよう制度構築中。11月1日施行予定。

3. オンライン相談について

コロナ禍、妊産婦の不安や孤独が強まっている。「オンライン相談や面接」を求めてきたが、実施内容を問う。【市】出産・子育て応援事業「ゆりかご・こくぶんじ」の面接や両親学級など母子保健事業全般で実施、12月より開始の予定。【さの】このオンライン相談自体が市で初めての取り組み。丁寧にすすめていただきたい。

4. 安全・安心のまちづくりについて

コロナ禍の市総合防災訓練の特徴は。【市】①災害時臨時放送局開設訓練②感染症対策を講じた避難所開設訓練。③在宅避難者支援アプリの実証実験。【さの】放送局開設訓練はFMラジオ局立ち上げへの布石と受け止め評価する。【さの】分散避難のためホテル・旅館、神社仏閣と協定締結を。【市】協定締結に向けて検討・研究する。

公明党
さの 久美子



家族の感染時、子どもは？介護は？

保護者や介護者がコロナに感染した際の対応

【だて】家庭内感染が増えている中で保護者や介護をする家族が感染した際に未感染の子どもや被介護者、障がい者をどうケアするかは大きな課題である。保健所が手一杯の中、市が主体的に対応していくべきと考えるが見解を伺う。

【市】現状は保健所が対応している。陰性が確認されれば市内の福祉施設への短期入所は可能。子どもの場合は受入れ先の確保はできていない。【だて】国分寺市単独で難しければ、近隣市と共

同での施設確保も視野に検討を進めてほしい。

多胎児(双子や三つ子)家庭支援について

【だて】今年度から東京都の施策である「とうきょうママパパ応援事業」が開始され、双子などの多胎児家庭への支援が強化された。移動経費の補助など先進的な内容であり、いくつもの都内自治体で検討、導入が進んでいるが当市では導入に至っていない。速やかな対応を求める。【市】当市においてすでに行われている多胎児支援の事業(育児支援ヘルパー、交流事業等)を

国分寺政策市民フォーラム
だて 淳一郎



精査するとともに新たな支援の充実を行う。

【ペットボトル、プラごみの有料化は先送り】
【だて】7月からペットボトル戸別回収が開始され、便利になったという市民の声を聞いている。これまでの議論では、一定期間後に有料化との話もでていたが、コロナ禍において市民の理解は得にくい。当面の間、先送りを要望する。【市】議員からの指摘と現状を踏まえ検討を行う。

